

|  |   |               |          |
|--|---|---------------|----------|
| 科目名称 解析学 I   |   | (担当教員名： 渡邊道之) |          |
| 課程   | ： 学部 2 年次   | 開講学期          | ： 前期     |
| 授業形態   | ： 講義  | 授業規模          | ： 30 人以下 |
| インタビュー対象教員名  | 渡邊道之<br>(実施日時：9 月 1 日 (木) 12 時 20 分～12 時 50 分;実施場所:総合研究棟 3 階小会議室)   |               |          |
| インタビュー対象受講者  | 北林和樹，多田実乗<br>(実施日時：7 月 26 日 (火) 13 時 10 分～14 時 ;実施場所:総合研究棟 3 階中会議室) |               |          |
| <p>選定理由</p> <p>本授業科目については、学修の基礎となる数学Ⅲを高校時代に履修している学生と、そうでない学生がいるので、学修を成立させるための学力差が大きい。このような中で、数学Ⅲの習得の有無に関わらず、多くの学生が「内容がわかりやすかった」「受講してよかった」と答えている点が一番の選定理由であると言える。</p> <p>選定するに至った具体的な理由を以下に詳述する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業するうえでの教員としての目標（数式・記号に強くなる・扱えるようにする）を明確に持たれており、そのために授業を聴くだけに終わらず、学生が数学に浸る・手を動かすことを強く意識し、達成感を持たせるように授業が展開されている。</li> <li>・成績の可視化と意欲づけ<br/>本授業では、最初に述べたように数学Ⅲの履修の有無によって学生の理解が大きく異なるため、授業の最後に試験を実施するのではなく、授業中に頻繁に課される課題に対する学生の取組状況で評価が行われている。学生がその都度、達成度を確認できるよう、履修者名簿に各課題の確認欄が設けられ、学生自身がそこにチェックすることで達成度が確認できるようになっており、また課題ごとの加点、減点が明確にされることで、学生の意欲づけができています。できることだけが良いのではなく、積極的に授業に参加していくことが重要であることが学生に意識され、自発的な学びになっていると感じる。</li> <li>・協同的な学びの展開<br/>学生が課題（問題）を間違えても、他の学生や教員に聞くことができる。間違えても、その場で、間違いを理解し、納得できることが学ぶことになる。学生同士が教えあうことができ、全員の達成感と学びが深まっていることがうかがわれる。</li> <li>・授業の工夫             <ol style="list-style-type: none"> <li>①長時間を飽きさせず、数学に集中させるため、講義と演習、聴講と教えあいーなど静と動がうまく組み合わせられている。</li> <li>②学生に説明するためのスライドについて、学生が直観的に理解できるよう図などが工夫されている。</li> <li>③板書についても、後で学生が見返してわかる工夫がされている。(例) 間違いやすい点に吹き出しをつけて注意喚起するなど。</li> <li>④机間巡視の際に積極的に学生に声をかける。</li> <li>⑤学生一人一人に対する課題（問題）の添削</li> </ol> <p>本授業の教員は非常勤講師なので、どうしても初めは学生との距離があると思うが、学生の実態に合わせ、どの学生にも意義が感じられるようにしたいという考えが、能動的な授業になり、学生との距離を縮めて、結果として、学生からの高評価になっていると感じる。</p> <p>最後に、ベストクラス選定のヒアリングメンバーである私達自身が、もしこの授業を受けたら難しいと思っていた「解析」の意味と活かし方がきっと理解できるようになると実感させるものであった。</p> </li> </ul> |   |               |          |